

# 「うちどく」通信～2023.12～〔筑南小学校 毎月7日はうちどくの日〕

提出数（欠席）／人数

提出数／人数

1年 13／14

2年 15（1）／18

3年 11／12

4年 16／19

5年 15／24

6年 16（1）／17☆GOOD☆

全校 86（2）／104



## 1年 Y・R『へんしんトイレ』Eア 読んだ人：R 聞いた人：お母さん

R：トイレがとんでいるところがおもしろかった。  
お母さん：おもしろそうに読んでくれました。

## 1年 H・E『ぼくはなきました』Eク 読んだ人：E 聞いた人：お母さん

E：そうたぐんがいいところはみつからないけど、たんにんの先生がおしえてくれたからよかったなあと思ってなきながらうれしそうにかいていました。  
お母さん：いい所がみつからなくて泣きそうになったぼくに切なくなります、先生の一言がぼくの心を明るくしてくれました。みんないいところはあるよと教えてくれる本でした。

## 2年 I・H『おばけまほうにかかる』Eテ 読んだ人：H 聞いた人：お母さん

H：おばけまほうにかかるんだなあと思いました。  
お母さん：もうすぐクリスマスだから借りてきたそうです。1本のツリーがみんなの家に少しずついきわたりすてきなクリスマスを過ごしていました。我が家も素敵なクリスマスを過ごしたいです。

## 2年 M・H『なかよしおばけのゆかいなけっこんしき』Eテ 読んだ人：H 聞いた人：妹

H：おばけたちがけっこんしたのがびっくりしました。  
妹：おばけがかわいかったです。

## 3年 U・Y『アニマルバスとわすれもの』八女市立図書館貸出文庫 読んだ人：Y 聞いた人：お母さん

Y：ファンファンがオーケストラのコンサートでシンバルをとどけに行ききゆうな坂道でもがんばっていいなあと思いました。  
お母さん：たくさんの動物、楽器が出てきてかわいい絵本と一緒に楽しみながら聞いていました。

## 3年 T・S『いちにちどうぶつ』Eフ 読んだ人：S 聞いた人：お母さん

S：いちにちどうぶつでパンダは木のぼりがとくいということがしれておもしろかったです。この本にはどうぶつのとくいなことや食べるものがいっぱいわかりやすくかいてあってべんきょうになりました。  
お母さん：いちにちどうぶつになってみるというお話でした。キリンが立ったまま寝るなど私も知らなかった事が沢山ありおもしろかったです。もっと知りたくなる本でした。

## 4年 O・S『このあとどうしちゃう』Eヨ 読んだ人：S 聞いた人：お母さん

S：この本を読んでいると楽しそうだなあと思いました。こういうノートを書いてみようかなと思いました。  
お母さん：「こないだ、おじいちゃんしんじやった」ではじまるこの本はおじいちゃんの残した「このあとどうしちゃうノート」を読み進めていく本でした。色々な考え方があるのだなあと思いました。私も楽しく考えてみようかなあと思いました。

## 4年 S・T『おばあちゃんのおなか』八女市立図書館貸出文庫 読んだ人：T 聞いた人：お母さん

T：おばあちゃんのおなかですべりだいをしているのをみてやってみたいなあと思いました。  
おばあちゃんのおなかが島になったりくじらになったりしておもしろかったです。  
お母さん：大きなおなかの元気なおばあちゃん。病気になってしまったけど主人公にとって楽しい思い出がたくさん残っていて良かったなあと思いました。

## 5年 B・Y『どんぐりむらのいちねんかん』八女市立図書館貸出文庫

読んだ人：Y 聞いた人：お母さん

Y：どんぐりむらのいちねんにはいろいろなことがあるんだなあと思いました。  
お母さん：どんぐりむらの1ねんかんを読み、8月、10月、12月のページが好きでした。もうすぐ1年が終わってしまいます。あつという間ですね。

## 5年 H・T『いちにちぶんぼうぐ』Eフ 読んだ人：T 聞いた人：お母さん

T：文房具の苦労や思っていることがわかっておもしろかったです。  
ぶんぼうぐになってみたいと思いました。  
お母さん：毎日使っている文房具になりきる姿がおもしろかったです。

## 6年 T・K『へいわってどんなこと?』Eハ 読んだ人：K 聞いた人：お母さん

K：今、ふつうに生活できていることがとても平和ということがわかりよかったなあと思いました。  
お母さん：互いにおもいやりの心で平等に接する事で平和を作る事ができる。平和であることはどれだけ自由であるかを考えさせられました。戦争を知らない私たちこそそれを知るべきですよ。平和ボケしないように。

## 6年 S・I『ピカドン』916コ 読んだ人：I 聞いた人：お母さん

I：被ばくした人の色んな話がのっていて、家族を失った人、家がこわれて防空壕で生活をいられていた人のことなど書いてあり、原爆のおそろしさがわかる本でした。  
お母さん：当時子どもだった人たちの原爆体験記でした。被爆体験を語る事ができる方々がいなくなってしまう前に原爆について語る事のできる人間を増やさなければいけないと切に思います。平和な日本で暮らす子どもたちは本当に自分の言葉で悲惨さを語る事ができるでしょうか。親子の会話を増やしていきたいと思います。

